



小田原男声合唱団

第40回記念定期演奏会



2011.11.12(土) 午後2:15 開場 午後3:00 開演
小田原市民会館大ホール

主催
後援

小田原男声合唱団
小田原市教育委員会
日本男声合唱協会(JAMCA)
神奈川男声合唱協会(KAMCA)
湘南合唱連盟
小田原地区合唱連盟
小田原音楽連盟

§ プログラム

I MESSE SOLENNELLE 荘厳ミサ より Albert Duhaupas 作曲 福永陽一郎 監修

指揮 杉山 範雄

- 1 Kyrrie
- 2 Gloria
- 3 Sanctus
- 4 O Salutaris
- 5 Agnus Dei
- 6 Domine Salvum
- 7 Pie Jesu

II 男声合唱組曲「達治の旅情」

指揮 外山 浩爾

— 本年度委嘱曲 初演 —

- 1 いっしかにひさしわが旅
- 2 南の海
- 3 西国札所
- 4 天上大風
- 5 松子
- 6 国のはて

三好 達治 作詩 多田 武彦 作曲

休 憩

III 男声合唱による 日本抒情歌曲集 より

指揮 ビアノ 絃一 牛丸 中根 希子

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 早春賦 | 吉丸 一昌 作詩 中田 章 作曲 |
| 2 叱られて | 清水かつら 作詩 弘田龍太郎 作曲 |
| 3 待ちぼうけ | 北原 白秋 作詩 山田 耕筈 作曲 |
| 4 椰子の実 | 島崎 藤村 作詩 大中 寅二 作曲 |
| 5 浜辺の歌 | 林 古溪 作詩 成田 為三 作曲 |

林 光 編曲

IV 男声合唱とピアノのための「わが詩友」

指揮 ビアノ 外山 浩爾 中根 希子

— 本年度委嘱曲 JAMCA 北海道演奏会(札幌 7/17)にて初演 —

- | | |
|----------|----------|
| 1 砂の砦 | 三好 達治 作詩 |
| 2 詩人の友 | 丸山 薫 作詩 |
| 3 浅春偶語 | 三好 達治 作詩 |
| 4 新しい時代に | 丸山 薫 作詩 |

信長 貴富 作曲

S 曲目解説

MESSE SOLENNELLE 荘厳ミサより Albert Duhaupas 作曲 福永陽一郎 監修

ミサ曲は、キリスト教の典礼(ミサ)に伴う声楽曲である。ミサは本来、カトリック教会の聖体拝領を伴う典礼を指す語であり、教会の典礼儀式の中でも最も重要なものである。

初期のミサにおいては、典礼文はグレゴリオ聖歌や単声による朗唱方式によって歌われた。これらが音楽的な基盤となり、多声によるミサ曲が書かれるようになった。さらに、声楽に加えて楽器も付加されるようになり、19世紀には、宗教音楽の域を超えた演奏会用の作品としての位置づけも持つようになった。

ミサ曲の基本的な構成要素は、一般的に、『キリエ』(求憐誦)、『グロリア』(栄光頌、天には神に栄光)、『クレド』(信経、信仰宣言)、『サンクトゥス』(三聖頌、感謝の賛歌)、『アニュス・デイ』(神羔頌、神の小羊)の5曲である。これらにはみない通常文といい、必ず同じ典礼文を用いるため、作曲された時代背景が異なっても、歌詞そのものは一定である。ミサ・ソレムニスとは、これら5曲をすべて備え、「盛儀ミサ」という意味がある。邦訳では『荘厳ミサ』ともいう。

デュオーパーは1832年、北フランスの小都市アラスで生を受けた。父のエミールに音楽を学び、パリ音楽院でピアノを学んだ。そして、18歳でアラスに戻り、父親の後を継いでアラス大寺院のオルガニスト兼聖歌隊長を務めた。1869年、パリでオルフェオンという男声合唱活動が盛んな時期に男声合唱のコンクールが催された。デュオーパーはこのコンクールのためにミサ曲を作曲し、自らがリーダーであった男声合唱団の指揮をして初演をした。これが、この「荘厳ミサ」曲である。従って、この曲は礼拝のためではなく、演奏会用に書かれている。しかも、当時はナポレオン三世の時代で、7曲目の「Domine Salvum」(主よ、助けたまえ)では、「神よ、われらの皇帝ナポレオンを助け、われらの願いを聞き入れたまえ」とある。

デュオーパーの「荘厳ミサ」は、男声合唱を歌い続けている人(合唱団)なら、一度は歌っておきたいと思う。全曲を演奏すると約40分かかるとして、音域も、3オクターブにも及び、ハイテナー(男声合唱団の、いわゆるトップテナー)の最高音は「H」でフォルテで演奏することを要求される。また、ベースの音域は下線の下「D」から上の「F」までである[今回、小田原男声合唱団が使用する楽譜、MESSE SOLENNELLE 荘厳ミサ―監修 福永陽一郎(有)キックオフ 発行版による]。そのため、難曲とされて、全曲が演奏されることは少ない。1948年、関西学院グリーンクラブが第15回リサイタルで「Kyrie」を初演し、そして、翌年のリサイタルで全曲が演奏された。

小田原男声合唱団では、1995年の第24回定期演奏会で現在の小田原の音楽監督兼常任指揮者の外山浩爾先生を客演指揮者としてお招きし演奏している。今回の演奏会では、「Credo」を除いた7曲を指揮者兼ヴォイストレーナーの杉山範雄先生に指揮をしていただく。

[参考出典 ウィキペディア 文責 T2 福井 隆]

男声合唱組曲 「 達治の旅情 」 三好達治 作詩 多田武彦 作曲

詩人・三好達治先生の生地は大阪市東区(現・中央区)南久宝寺町。私の生地は南區(現・中央区)大宝寺町西之丁から北へ2料程の所。そんなご縁を感じて私は学生時代から、何度か三好先生の詩にも作曲を試みたが果たせず、四半世紀を経た1977年、「海に寄せる歌」「わがふるさ日のうた」「追憶の窓」「秋風裡」の男声合唱組曲と混声合唱組曲「季節のたより」を一気に作曲した。

三好先生の詩に漂う抒情は、時には濃厚に、時には可憐に変化する。しかしその底流には常に三好先生ならではの人生観・宗教感が存在する。この特質を見失って小利口に音だけ追い掛けて作曲すると恥をかく。そんな思いを抱き続けて2008年には先生の最後の詩集「百たびのち」より六篇を選び同名の男声合唱組曲を作曲した。

処で私は、1971年神奈川県湘南地区に移り住み、小田原男声合唱団との交流が始まった。周期的に新曲の委嘱があったが、常に「小田原に所縁のある詩人北原白秋・三好達治・大木淳夫の諸先生の詩に作曲してほしい」との指示があり、これに従って2000年には大木先生の詩による組曲「西湖の風雅」、2005年には北原先生の詩による組曲「互寒小景」、2007年には再び大木先生の詩による組曲「四季點綴」を書いた。外山浩爾先生指揮・小田原男声合唱団の演奏によって名初演を続けて頂いた。

生来虚弱体質の私は、77歳になった2008年以降、加齢現象や怪我によって体調不良となり、主治医からは遠距離移動や長時間の指揮・講習・観劇等を禁じられたが、自室に籠もっての作曲家活動だけは許された。余命幾許もない間に、作曲し残した作品を書き残しておこうと、2008年以降「春のいそぎ」「更紗模様」「百たびのち」「過ぎし日」「中也の四季」「東京景物詩・第二」「南国の空青けれど」「ふるさと」の夜に寄す」「歳月」の男声合唱組曲を作曲した。そして今年(2010年)1月以降、前述の小田原男声合唱団のご指示に応えるために作曲したのが、男声合唱組曲「達治の旅情」である。

三好達治先生の詩には旅の詩や花の詩が多い。その旅の詩の中から箱根連山の麓の湯治場の静謐を描かれた「いつしかにひさしわが旅」、眼前に広がる早春の海と、人々の生活を一幅の絵画のように描かれた「南の海」、京都清水寺門前の京焼陶器の店のお内儀との軽妙な会話を京都ことばで描かれた「西国札所」、戦国時代の戦略的要衝で、現在の福井県大野市温見の寒村を訪れた折の印象を描き、良寛禅師の著名な仄文字の書を詩の標題とされた「天上大風」、とある浜辺の飯屋で一人旅の旅情をたたためられた「松子(しいい)」、幾度かの旅への追憶を、自身越し方行く末に投影し描かれた「国のはて」の六篇を選んで作曲した。

この作品は、小田原男声合唱団創立40周年を記念し2010年7月7日に完成した。

(委嘱記念特別版(2010年11月6日)による初演)

[寄稿 多田 武彦 先生]

「抒情歌曲」は日本の歌曲のジャンルのひとつで詩の分野における「抒情詩」から派生して称されるようになった。「抒情歌曲」に含まれるのは古い童謡、唱歌、ラジオ歌謡曲等で日本人の琴線に触れる郷愁や懐かしさを感じるような曲想をもった曲が多い。今回は多くの抒情歌曲の中から日本を代表する作曲家の一人である林光氏(1921～)が選んで編曲した曲集より、特に親しまれている5曲を取り上げた。「待ちぼうけ」以外の4曲は2006年、文化庁が中心となり親子で長く歌い継いで欲しい歌として選定した「日本の歌100選」に選ばれている。

1. 早春賦

吉丸一昌は東京音楽学校教授で早春賦は安曇野辺りの早春の情景をうたった詩とされ、中田章が作曲して大正2年に発表された。吉丸には他に「故郷を離るる歌」等がある。

作曲の中田章は東京音楽学校の教授で昭和を代表する作曲家の一人である中田喜直の実父である。

2. 叱られて

清水かつらは大正の童謡運動の一翼を担った作詞家で、この詩は近隣から奉公にきた子供達の悲哀をうたっている。作曲の弘田瀧太郎は山田耕筰と共に大正から昭和にかけての童謡運動を牽引した一人で、この曲は大正9年に発表された。同じコンビで「靴がなる」がある。

3. 待ちぼうけ

作詩北原白秋、作曲山田耕筰については改めて解説をするまでもない日本の生んだ巨星である。この曲は満州の教育会からの依頼で「ペチカ」と共に大正13年に作られた。この教訓的な詩は中国の思想書の一つである「韓非子」の中にある説話「守株待兔」から録られたものである。

4. 椰子の実

この詩は藤村が友人であった柳田國男（後に民族学の大家）が伊良湖岬の浜辺で見た椰子の妻の話に興味を持ち生まれたという逸話が残されている。昭和11年、国民歌謡として日本放送協会が大中寅二に作曲を依頼し誕生した。

椰子の妻の漂泊の旅に自らの来し方を重ねて強い郷愁をうたい上げている。

5. 浜辺の歌

国文・漢文学者であった林古溪が音楽雑誌に作曲の教材として掲載した詩に、当時東京音楽学校の学生であった成田為三が作曲して大正7年に発表した。

本来3番までであったが、作詞者の意思により2番までの歌になっている。「浜辺」は辻堂辺りの湘南海岸といわれ幼い日に散策した時の追憶をうたっている。

[文責 B1 牛丸 紘一]

男声合唱とピアノのための「わが詩友」 信長 貴富 作曲

三好達治(1900～1964)の「浅春偶語」に作曲してみたいという思いが以前からあり、今回の曲集にこの詩を用いることを最初に決めました。

「友よ」と呼びかける詩句とオダダンの人間模様が重なり合うように感じられたからです。「浅春偶語」の冒頭には次のような文が添えられています。

—— 『物象詩集』の著者丸山薫君はわが二十余年來の詩友なり、
この日新著を贈られてこれを繙(ほん)とくくに
感慨はたもたず能(あた)はず、乃(すなは)ち

丸山薫(1899～1974)と三好達治は旧制第三高等学校（現・京都大学）以来の“詩友”であり、三好が詩作を始めたのは丸山の影響があったからと言われています。三好は『詩壇十年記』の中で「私はこのやうな級友をもつて、はじめて私の身辺に詩人の存在、詩というものの魅力を見つけたのである。」と述べています。

両者は互いの存在を認め合いつつも、詩風については必ずしも主張が一致していたわけではなく、特に後半生には一定の距離を保っていました。批判的精神の中で相互に自立した世界を持ち合う芸術家同士であれば、二人の距離はむしろ当然の隔たりであったとも言えるでしょう。

このような二人の詩人の心の交流を背景に置き、歌をうたう（詩を書く）ことの苦悩や、歌に託する希望を、合唱曲集として構成したものが《わが詩友》です。作曲にあたっては、近代詩のもつある種の「折り目正しさ」のようなものを表現したく、日本語の置き方への配慮（主にリズム法）や、古典的な和声を中心とした音選びなどを意識の中心に据えました。

最後になりましたが、指揮の外山浩爾先生、ピアノの中根希子さん、小田原男声合唱団の皆さま、作曲の機会をお与えただきありがとうございました。

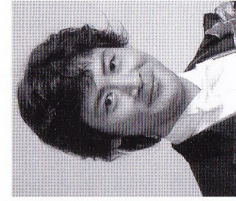


外山 浩爾 音楽監督 / 常任指揮者

日本楽壇の功労者・外山国彦を父に、指揮者・外山雄三を兄にもつ音楽一門の出身。幼少より本格的な音楽教育を受け、東京藝術大学において、柴田陸、ウーファア・ペニヒ、リア・フォン・ヘンサート諸氏に師事。卒業後直ちに同大学及び附属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団の活動に参画し、「森の歌」「ドイトツレクイエム」等のソロ活動、「カルメン」「蝶々夫人」等、数多くのオペラ活動、「歌のメリーゴーランド」「セブンシー」等、長期テレビ活動など幅広く活動。他方、合唱活動にも積極的に参画し、世界合唱連合(現 IFCM)設立代表委員、東京都合唱連盟理事長、全日本合唱連盟副理事長等を歴任。殊に明治大学グリーククラブをウィーン音楽祭で銀賞受賞まで育て、個人として明治大学特別功労賞(第1号)に輝く。国内外の現代合唱作品の数多くの新作初演等を行い合唱界発展のために尽力。

教育活動では、東京藝術大学附属高校副校長をはじめ東京藝術大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学連合大学院教授、全日本音楽教育研究会副会長等を歴任し、1992年には、文部大臣より教育功労表彰を受ける。1996年小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任。

現在、聖徳大学大学院教授、全日本音楽教育研究会大学部会常任理事、東京藝術大学音楽学部同声会副会長、(社)全日本合唱連盟名誉会員、日本合唱指揮者協会、NHK全国学校音楽コンクール審査員、板橋区混声合唱団、世田谷区合唱連盟主宰合唱団ラディアータ、葛飾区民合唱団、明治大学グリーククラブ、共立女子大学合唱団等の指導にあたる。



杉山 範雄 指揮者 / ヴォイス・トレンナー

小田原出身。10歳より小田原少年少女合唱隊に入隊、ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。湘南工科大学附属高等学校、東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに「フイガロの結婚」伯爵、「コシ・ファン・トサット」ドン・アルフォンタ、「カルメン」エスカリヨ、等を演じ、クープラン「聖ジザンナのモテット」、バツハ「カンタータ」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「第九」、オルフ「アプロディーテの勝利」、「カルミナ・ブрана」等、演奏会・バスソロにて多数出演、故佐藤功太郎、小泉ひろし、小林研一郎等、各指揮のもとソロリストを務める。

ソロ・しるふれい、金沢混声合唱団、In Pace、栄混声合唱団、女声部ぶどうの会、鎌倉市民混声合唱団、北鎌倉女声合唱団、アンサンブル萌、等の常任指揮者を務める。サウンドブリッジ合唱団、JVC合唱団、小田原男声合唱団、コロ・フロスタ、桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」等でも、指導・ヴォイス・トレンナーを務めている。読売文化センター、さがみ・コミュニティ・ホール文化事業や楽しい合唱講座、栄区メサイア塾、等講師。

声楽を多田羅迪夫、桑原妙子の各氏に師事。神奈川県合唱連盟理事、藝大小田原市人会員。2010年小田原男声合唱団の指揮者に就任。



牛丸 紘一 指揮者

小中学校より器楽合奏部・吹奏楽部に入り音楽に親しんでいたが高校で合唱で合唱に出会い、以後今日に至るまで「合唱命」の生活を送る。高校の恩師により合唱指揮と和声の指導を受けて指揮を始め、大学時代には母校金沢大学合唱団の指揮者を務めて、学生生活の大半を部室で過ごした。卒業後は京都にて製菓会社に勤務の傍ら、京都で最も伝統のある京都混声合唱団に入団、副指揮者・指揮者を務めた。この間、京都市交響楽団との協演の機会にはバツハの「マタイ受難曲」、ハイドンの「四季」「天地創造」、ベートーヴェンの「第九」、モーツァルト、ドボルザーク、ヴェルディ、フォーレ、デュルフレの「レクイエム」、メンデルスゾーンの「エリア」、マーラの「復活」、ラベルの「ダフニスとクロエ」等の合唱指導を担当した。また、自社会合唱団を率い、ポリフォニックな曲をレパートリーとして産業人合唱コンテストや音楽祭に於いて優秀な成績を収めたほか、女声合唱団等の指揮者としても活躍した。

1995年、転勤により小田原へ移住し当団に入団。2005年より団内指揮者を務めている。第36回定期演奏会では「千の風になつて」を男声合唱に編曲、アンコールにて披露し好評を得た。星旭、中村外治、青山政雄、蔵田裕行氏に指導を受ける。

日本新薬(株)取締役等を歴任。



中根 希子 ピアノ

平塚江南高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第4回かながわわがわ学生音楽コンクール入賞、県市長会会長賞受賞。第48回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会入選。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位。ウィーン、シカゴ等での音楽講習会・マスタークラス参加、修了演奏会に出演。1999年東京都庭園美術館コンサートでは、若手実力派演奏家として毎日新聞に掲載される。同年、ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念および国際ショパン記念演奏会」に出演。2000年「ピアノ名曲集」のCDを発売。小田原市記念事業製作の新童謡CD全3作収録参加。2007年小田原市民劇場、小林研一郎指揮「市民による第九演奏会」、2008年小林研一郎指揮「モーツァルトレクイエム二短調」、2009年末廣 誠指揮「市民による第九演奏会」、2010年広上淳一指揮「市民によるオペラ・ガラ・コンサート」、2011年富澤 裕指揮「市民によるフォーレス・レクイエム」。他方、2009年4月ウィーンフィル・ジュイトイテ弦楽四重奏団と共演し好評を博す。国内外のリサイタル活動はもとより、歌曲伴奏、室内楽等の演奏会やレコーディング、FMおだわらの出演等幅広く活躍。また2010年8月「白秋・耕作を歌い継ぐコンサート」〜大谷例子さんを囲んで〜では白井英治・白井 彩各氏とトリオを好演。

これまでに植田克己、佐藤俊、ノエル・フロレースの各氏に師事。藝大小田原市人会員。

平成23年度(2011年)事業・今後の主な事業 等

(1)	2011.	1. 11	(火)	歌いはじめ		旭丘高校音楽室
(2)		2. 11	(金)	総会		小田原市民会館 大H
(3)		3. 5	(土)	みんので歌おう！市民による フォーレ・クワイム ゲネプロ		小田原市民会館 大H
(4)		3. 6	(日)	みんので歌おう！市民による フォーレ・クワイム		平塚市民センターH
(5)		5. 29	(日)	第60回 湘南合唱祭		小田原市民会館 小H
(6)		6. 11	(土)	第20回 日本男声合唱協会 JAMCA 関東合同練習 (土曜ミサ・秋の七五・雨)		札幌市教育文化会館 大H
(7)		7. 16	(土)	第20回 日本男声合唱協会 JAMCA 北海道委員会 ゲネプロ		札幌市教育文化会館 大H
(8)		7. 17	(日)	第20回 日本男声合唱協会 JAMCA 北海道委員会		小田原市民会館 大H
(9)		8. 7	(日)	東日本大震災チャリティコンサート		いこいの村あしがら
(10)		10. 1	(土)	強化練習(合宿)10/1(土)泊～2(日)		小田原市民会館 大H
(11)		10. 16	(日)	第45回 小田原市民合唱祭		小田原市民会館 大H
(12)		11. 11	(金)	ゲネプロ		小田原市民会館 大H
(13)		11. 12	(土)	第40回 定期演奏会		小田原市民会館 大H
(14)		12. 25	(日)	歌いおさめ		旭丘高校音楽室
(15)	2012.	1. 10	(火)	歌いはじめ		旭丘高校音楽室
(16)		2. 11	(土)	総会		小田原市民会館
(17)		3. 10	(土)	みんので歌おう！市民による トイツ・クワイム ゲネプロ		小田原市民会館 大H
(18)		3. 11	(日)	みんので歌おう！市民による トイツ・クワイム ～ 被災地に思いを託して～		小田原市民会館 大H
(19)		4. 15	(日)	南工コーラス 50回 記念定期演奏会 賛助出演		南足柄市文化会館 大H
(20)		6. 3	(日)	第61回 湘南合唱祭		伊勢原市民文化会館 大H
(21)		9. 15	(土)	第9回 神奈川県合唱協会 KAMCA 横浜北演委		横浜市民公会堂 大H
(22)		9. 29	(土)	強化練習(合宿)9/29(土)泊～9/30(日)		いこいの村あしがら
(23)		10.	(日)	第46回 小田原市民合唱祭		小田原市民会館 大H
(24)		11. 9	(金)	ゲネプロ		小田原市民会館 大H
(25)		11. 10	(土)	第41回 定期演奏会		小田原市民会館 大H

第41回 定期演奏会 11月10日(土) 開場 14:30 開演 15:00 小田原市民会館 大ホール

男声合唱組曲「西湖の風雅」 アカペラ

大木 惇夫 作詩
多田 武彦 作曲

- I 酒匂川
- III 春來れば
- V 赤き屋根
- II 野茨と蜜蜂の中へ
- IV 風と葦切(北村)
- VI 海音

他 より練習に入ります

団員随時 募集 !! いっしょに歌いましょう !!

年齢 高生～80歳代と、幅広い年齢層です。再び復団された方もたくさんいます。練習用CD等を用意していただきます。
 年齢 男性で、歌好きの方でも大丈夫です。お気軽にお越しください。練習用CD等は、5000円余りです。
 性別 勿論、初めの方でも大丈夫です。お気軽にお越しください。練習用CD等は、5000円余りです。
 団員 小田原・真鶴・湯河原・伊勢原・厚木・二宮・茅ヶ崎・藤沢・鎌倉・横浜
 練習日 小田原・大井・中井・桑野・伊勢原・厚木・岡山県赤磐市と広範囲です。
 連絡先 母週火曜日 18:30～21:00 小田原 旭丘高等学校(小田原より城加通、徒歩8分)
 岩越万里 TEL 0463(34)9177 桑原敏雄 TEL 0465(83)4600 青野幸夫 TEL 0463(87)2473

委嘱曲への歩み

2001年	第30回記念 定期演奏会 委嘱曲	初演 (JAMCA 石川県・金沢市)	大木 惇夫 作詩	多田 武彦 作曲
	男声合唱組曲「西湖の風雅」			
2006年	第35回記念 定期演奏会 委嘱曲	初演 (JAMCA 大分県)	北原 白秋 作詩	多田 武彦 作曲
	男声合唱組曲「五寒小唄(かみよりけい)」			
	男声合唱のための 宮崎駿了ニメ映画音楽集			
	さんぽ	作曲 委嘱	中川 季枝子 作詞	久石 譲 作曲
	いつも何度でも	作曲 委嘱	覚 和歌子 作詞	木村 弓 作曲
	さんぽ～finale～	作曲 委嘱	中川 季枝子 作詞	久石 譲 作曲
2008年	第37回 定期演奏会 委嘱曲	初演 (JAMCA 瀬戸)	大木 惇夫 作詩	多田 武彦 作曲
	男声合唱組曲「大木惇夫の詩から・四季點綴(しまていてい)」			
	5つのオアハケーニャによる憧憬	作曲 委嘱	信長 貴富 編曲	
2009年	第38回 定期演奏会 小田原地区合唱連盟40周年記念 委嘱曲	初演	信長 貴富 編曲	
	男声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」-北原白秋選集-	初演	信長 貴富 編曲	
2011年	第40回 記念定期演奏会 委嘱曲	初演 (JAMCA 札幌にて)	三好 達治 作詩	信長 貴富 作曲
	男声合唱とピアノのための「わが詩友」	初演	丸山 薫 作詩	
	男声合唱組曲「達治の旅情」	初演	三好 達治 作詩	多田 武彦 作曲

小田原男声合唱団 メンバー

T1	T2	B1	B2
福嶋 修 35 (小田原市)	青野 幸夫 38 (秦野市)	青野 正純 40 (小田原市)	井上 忠彦 40 (小田原市)
西山 廣木代 34 (二宮町)	佐藤 精孝 28 (二宮町)	下村 興毅 40 (小田原市)	坂口 宗夫 40 (小田原市)
日置 達男 32 (小田原市)	福井 隆 28 (二宮町)	伊東 清邦 36 (秦野市)	赤川 軍一 23 (伊勢原市)
斎藤 惠司 30 (伊勢原市)	宝子山 尚生 20 (小田原市)	小澤 一色 36 (小田原市)	一色 義信 21 (秦野市)
加藤 重喜 21 (秦野市)	空 中 勉 20 (秦野市)	江藤 凱夫 33 (厚木市)	桑原 敏雄 20 (大井町)
佐野 惠 15 (剛嶮 緑市)☆	杉本 健二 19 (南足柄市)	江川 卓男 19 (鎌倉市)	原 誠 20 (南足柄市)
諏訪部 清 8 (中井町)	杉原 由一 10 (小田原市)	牛丸 紘一 16 (小田原市)	田島 達也 19 (南足柄市)
堀内 哲夫 8 (小田原市)	山田 允彦 8 (茅ヶ崎市)	奥津 光隆 15 (真鶴町)	星野 正博 17 (茅ヶ崎市)
伊藤 正昭 5 (横浜市)	伊藤 甲一 6 (松田町)	湯川 裕光 15 (小田原市)	古林源次郎 13 (二宮町)
水城 高嶺 5 (秦野市)	吉本 隆一 5 (小田原市)	岡部仁之助 14 (秦野市)	豊田 増穂 11 (小田原市)
望月 信夫 4 (小田原市)	山本 洋之 3 (小田原市)	菊池 義彦 13 (小田原市)	近藤陽一郎 9 (二宮町)
河田 一男 2 (伊東市)	鬼澤 正純 2 (藤沢市)	熱田 隆純 10 (南足柄市)	鈴木 壽久 9 (南足柄市)
		西山 隆行 8 (秦野市)	曾我 重康 5 (小田原市)
		岩越 万里 3 (小田原市)	木村 昌彦 4 (茅ヶ崎市)
		大塚 常昭 3 (小田原市)	磯田 幸男 1 (小田原市)
			大淵 覺 1 (横浜市)
			柳田 圭一 1 (湯河原町)

☆ 団友

音楽監督

常任指揮者

外山 浩爾

指揮者

ヴォイストレーナー

杉山 範雄

ピアニスト

中根 希子

運営スタッフ

団 長

副 団 長

団内指揮者

事務局 長

技術部 長

財政部 長

渉外部 長

情報部 長

団員部 長

事業部 長

財政監査

一色 義信

斎藤 惠司

牛丸 紘一

桑原 敏雄

福井 隆

佐藤 精孝

斎藤 惠司

加藤 重喜

岩越 万里

青野 幸夫

田島 達也

近藤陽一郎

演奏会スタッフ

委員長 青野 幸夫

事務局 桑原 敏雄

会計 佐藤 精孝

T 伊藤 甲一

B 鈴木 壽久

演 出 福井 隆

広 報 桑原 敏雄

渉 外 斎藤 惠司

招待状 豊田 増穂

写 真 加藤 重喜

舞 台 曾我 重康

打上げ 斎藤 惠司

岩越 万里

青野 幸夫

日置 達男

小田原木曜会

市レレブ・シヨニスト

石崎 雅美

チアプロ

ライブリー

ロビー

アサガス

団内副指揮者 宝子山 尚生

パートリーダー

T1 日置 達男

T2 宝子山 尚生

B1 牛丸 紘一

B2 一色 義信

団員副部長

T1 望月 信夫

T2 伊藤 甲一

B1 大塚 常昭

B2 鈴木 壽久

事務局 主事 井上 忠彦